

平成30年度 学力向上プラン

学校名 中央区立 佃中学校

学校の教育目標

- ・深く考え 実行する生徒
- ・自ら学び 伸びていく生徒
- ・励まし合い 助け合う生徒
- ・礼儀正しく 規律ある生徒
- ・個性豊かで たくましい生徒

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

確かな「学力」をはぐくむ学校

授業指導では

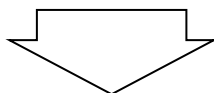
- ① 実践について話し合う。
- ② 相互に観察し合う。
- ③ 授業、単元、計画、企画を一緒に作る。
- ④ お互いに教え合う。

平成29年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	生徒の学力の課題	主な要因
国 語	○ 1学年の「学習力サポートテスト」では概ね良好であるが漢字の書き取りで目標値(年齢相応のあるべき学力)を下回り、覚えさせる機会が少ない。 ○ 2学年の「学力向上を図るための調査」では観点別の調査結果のほとんどの項目において都の平均正答率を上回っている。しかし、「取り出す力(大切なところを見つけ出す力)」「解決する力」の項目においては都の平均正答率を下回っている。 ○ 3学年「学力サポートテスト」ではほとんどの項目で目標値を上回っているが、「話し合いの内容を聞き取る」「話す・聞く」「漢字を書く」項目で、目標値を下回っている。	○ 継続的な漢字書き取りテストが必要である。 ○ 読むこと、聞くこと、話すことに比べ、決められた時間内で作文を書くなどの作業時間が少ない。グループワークの中で互いに教え合う中で、自分たちで気づかせる必要がある。 ○ 毎時間の漢字書き取りテストを実施しているが、月ごとのまとめテストなど繰り返しの実施も必要である。
数 学	○ 1学年の「学習力サポートテスト」では全国平均とほぼ同程度であるが、百分率に対する理解が十分とはいえない。 ○ 2学年の「学力向上を図るための調査」では、「思考・判断・表現」や「技能」「読み取る力」が東京都の平均正答率を下回っている。 ○ 3学年の「学習力サポートテスト」では、全国平均とほぼ同程度であるが、連立方程式が目標値を下回っている。また「全国学力・学習状況調査」では記述式の項目が平均値を下回っている。	○ 習熟度に応じて、個別指導、少人数指導、定期考査前の補習を丁寧に行い、生徒の個々のつまずきに早期に対応する。 ○ 数学を活用する問題について、グループワーク等を活用した思考力の向上を図る取組が不足している。また計算力の向上を図る演習が足りない。 ○ 改善のため、思考の過程を重視した小テストを行う。繰り返し確認しながら定着を図る。
社 会	○ 1学年「学習力サポートテスト」では、どの項目も目標値(年齢相応のあるべき学力)を下回っている。特に「安土桃山時代、江戸時代」「明治か	○ 知識理解の定着に向け小テストを実施していく。 ○ 身近な教材を使い授業の中で

	ら昭和」などの歴史の知識理解に課題がある。また、社会的事象との関連される必要がある。 ○ 2学年「学力向上を図るための調査」では「技能」や「知識・理解」が東京都の平均正答率を若干下回っている。 ○ 「学習力サポートテスト」では、全国平均とほぼ同程度であるが、日本の地域構成の問題に課題がある。	話し合い活動を取り入れる。グループワークによる知識の共有を図り、単元ごとに資料を活用してまとめていく作業を行う。 ○ 日本の地域構成の問題について小テストなど繰り返し行う。
理 科	○ 1学年「学習力サポートテスト」では、正答率が目標値（年齢相応のあるべき学力）を全体的に下回り、今までの学習内容がしっかり身に付いていない。 ○ 2学年「学力向上を図るための調査」ではほとんどの項目で正答率が都の平均を上回っているが、「読み取る力」が平均を若干下回っている。 ○ 3学年「学習力サポートテスト」では「電流の正体」「生物と細胞」や「観察・実験の技能」において目標値（年齢相応のあるべき学力）を下回っている。また「全国学力・学習状況調査」では「知識」に関する項目が目標値（年齢相応のあるべき学力）を下回っている。	○ 小テストを行うなど丁寧な指導により知識の定着を図る。 ○ 観察や実験を通して、深く読み取りじっくり考えさせる時間を確保する。 ○ 基礎的・基本的な技能を個別に指導する場面が不足しているため、グループワーク等、技能の定着を図る場面を設定する。また単元テスト・小テストなどを繰り返し行い、知識の定着を図る。
英 語	○ 1学年生徒対象とした「授業アンケート」では「話す」・「聞く能力に関する取り組みは積極的であるが、「読む」・「書く」能力については定着に時間がかかる。 ○ 2学年「学力向上を図るための調査」では概ね東京都の平均正答率を上回っているが、「関心・意欲・態度」が平均正答率を下回っている ○ 3学年「学習力サポートテスト」では「場面に応じて書く英作文」が目標値（年齢相応のあるべき学力）より下回った。	○ 単語テストや単元テスト、ディクテーションなどの様々な取り組みを恒常的に行う。 ○ 会話中心の授業から、書かせることを意識した授業展開を進める。 ○ いろいろな英語表現を経験させ表現力の向上を図る必要がある。 ○ 少人数学習集団のクラス分けの工夫や定期考査前の補習等を行う。
体 育	「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果では、合計値は東京都平均より高くなっているが、 ○ 2年生男子では「立ち幅とび」が10ポイント、3年生は「持久走」が1.8ポイント東京都平均値より下回った。 ○ 女子では、「握力」が2年生は0.2ポイント、3年生は1.4ポイント東京都平均値より下回った。	○ 2年生男子では、体育の授業や部活動で走る跳ぶを意識させる。「立ち幅とび」は体全体を使い、フォームを意識することが必要である。男子3年の「持久走」では、長距離走などねばり強くつづけていく運動が必要である。 ○ 女子の「握力」では、体育の授業の中で握力向上を意識した準備体操を行う。また、ラケットやバットを使用したスポーツを実践する。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	授業評価アンケート・学校評価アンケート・外部評価委員会等において、「基礎基本が身に付けているか」という項目等が80%を目標とする。
②授業改善	授業評価アンケート・学校評価アンケート・外部評価委員会等において、「授業改善を努めているか」という項目等が80%を目標とする。
③教員の指導力	授業評価アンケート・学校評価アンケート・外部評価委員会等において、「授業や補習を工夫し、生徒の学力を高め、個性を伸ばしてくれているか」という項目等が80%を目標とする。
④家庭との連携	「学習力サポートテスト」、「学力向上を図るための調査」、「全国学力・学習力状況調査」等で、家庭学習時間（塾を除く）を1時間の実施を目標とする。
⑤その他	全生徒を対象に、朝学習と基礎検定、定期考査前の放課後補習、学期末の読書活動を実施する。



【目標達成のための具体的な取組内容】

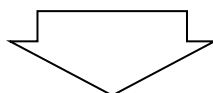
①学力基盤	
取組Ⅰ	年間指導計画・評価計画・学習の手引きの活用
取組Ⅱ	年間を通した授業時数の適正化と時間割の工夫
取組Ⅲ	年2回実施する授業評価アンケート（1学期末、2学期末）および研修会（夏期休業中、3学期始め）の活用

②授業改善	
取組Ⅰ	教員相互による検証 （公開授業・研究授業・授業改善プランの報告会等）
取組Ⅱ	生徒アンケートによる検証（授業評価アンケート・自己評価アンケート）
取組Ⅲ	保護者アンケート・外部評価による検証

③教員の指導力	
取組Ⅰ	学習の手引き・授業評価アンケート・通知表・教科面談・各種テスト・授業改善プラン・校内研修を活用したPDCAの実践
取組Ⅱ	管理職による授業を観察、及び指導・助言
取組Ⅲ	教育会や各研修会での研修

④家庭との連携	
取組Ⅰ	年2回の三者面談（3学年は4回）に加え、夏季休業中に教科面談を実施。また状況に応じた個別面談や家庭訪問。
取組Ⅱ	毎日の生活記録、定期考査前の学習計画表の活用
取組Ⅲ	月1回の学校だより、毎週末の学年だよりを通しての情報提供および啓発

⑤その他	
取組Ⅰ	朝学習と基礎検定 （生徒全員の週3回朝学習。基礎的基本的な内容の問題に取り組む。実施教科は国語・社会・数学・理科・英語である。同一教科を連続して数回学習した後、まとめのテストとして基礎検定を受ける。）
取組Ⅱ	定期考査前の放課後補習
取組Ⅲ	学期末の読書活動 （学期末の始業前に読書活動を行う。読んだ本を生活記録に記録する。）



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	年間指導計画や評価計画に基づいた計画的な学習実践ができた。生徒の学校評価では94%の生徒が苦手教科の克服に向けて努力していると答えている。	年2回実施した授業評価アンケートによる研修会での検証後、次年度への年間指導計画、評価計画を充実・修正する。
②授業改善	研究授業、授業改善プランの報告会等を通して、教員同士の課題や成果を共有できた。生徒による学校評価アンケートでは、89.4%が授業改善に努めていると高い評価になっている。	日々の授業改善に結びつく校内研修の計画・実践を見直し、より積極的に実施する。 保護者会や学校公開等を通して、授業を参観してもらい、授業改善への理解と協力を得ていく。
③教員の指導力	生徒による学校評価では、授業がよくわかるという評価は94%という高い評価であった。管理職による授業観察、指導助言、OJT 授業を通じた教員同士の授業力向上を行うことができた。	他教科の教育会や各研修会で得たことを教員同士の共有することが少ない。 授業評価アンケートによる研修会や職員会議、教科部会等で共通理解を図る。
④家庭との連携	夏季休業中に行われた教科面談の実施を通して、授業者と生徒・保護者と情報共有や課題成果の共有ができた。	東京都学力向上を図る調査では、1時間以上家庭学習をしている生徒（塾等を含まない）が41%であった。 定期考査前の補習授業等を家庭にも情報発信するなど、家庭と連携して家庭学習時間を増やす。
⑤その他	定期考査前の放課後補習では、多くの生徒が参加し、学習意欲が高まった。 校内で行っている授業評価アンケートでも、定期考査前の補習を受講したいという意見が多数あった。	朝学習のまとめテストである基礎検定実施後、理解が不十分な生徒への補充課題や補習を行う。 朝学習や読書活動等、忙しい学校生活の中で両方を充実させるための工夫が十分とはいえないので、改善充実を図る。